

地域生活支援部会からの報告

1. 開催概要

日時：平成25年10月1日（火）

会場：障害者総合支援センター研修室

議題：前回議事録の承認について

地域移行・地域定着支援連絡会の報告について

2. 内 容

○第1回地域移行・地域定着支援連絡会の報告について

- ・病院、障害者生活支援センターから出た意見の紹介
- ・入院患者の実態調査の結果、明らかとなった課題の報告

○精神保健福祉法の改正について

- ・医療保護入院手続きの見直しの説明

○委員からの意見

- ・重点的に地域移行支援を実施する対象者群については、広い枠組みでとらえた方が病院側も動きやすい
- ・病院だけでは支援が難しく、複数機関で連携して支援を実施する必要がある人（困難ケース）を重点的にリストアップしていきたい
- ・地域の中で不足している資源を洗い出す必要がある
- ・既存の資源を活用しながら、必要な仕組みについて検討していくべき
- ・長期入院者の退院だけでなく、早期に退院に結び付けた場合にも病院にとってプラスとなるような仕組みがあってもよいのでは
- ・病院、障害者生活支援センター、行政等地域におけるネットワーク構築が重要である

3. 今後の方向性

地域移行・地域定着支援連絡会と連携しながら、必要とされる社会資源や施策について検討を行うとともに、地域自立支援協議会に報告を行う。

地域移行・地域定着支援連絡会について

■ 概 要

精神障害者の精神科病院からの退院、地域移行・定着の支援を円滑に実施するため、関係機関の実務担当者が集まり、実態把握・課題整理を行うさいたま市地域自立支援協議会に属する機関である。

(平成23年度まで保健所にて実施していた精神障害者退院支援連絡会の後継機関)。

【メンバー構成】

精神科病院(6病院)、精神科クリニック(代表)、障害者生活支援センター(10区)、保健所精神保健課、こころの健康センター、障害福祉課、支援課、福祉課、高齢介護課

■ 目 的

精神障害者の地域移行・地域定着支援の実施に際して、関係機関の実務者レベルでの情報共有の場を設けることで、医療と福祉の連携を図り、ネットワークを構築することを目的とする。

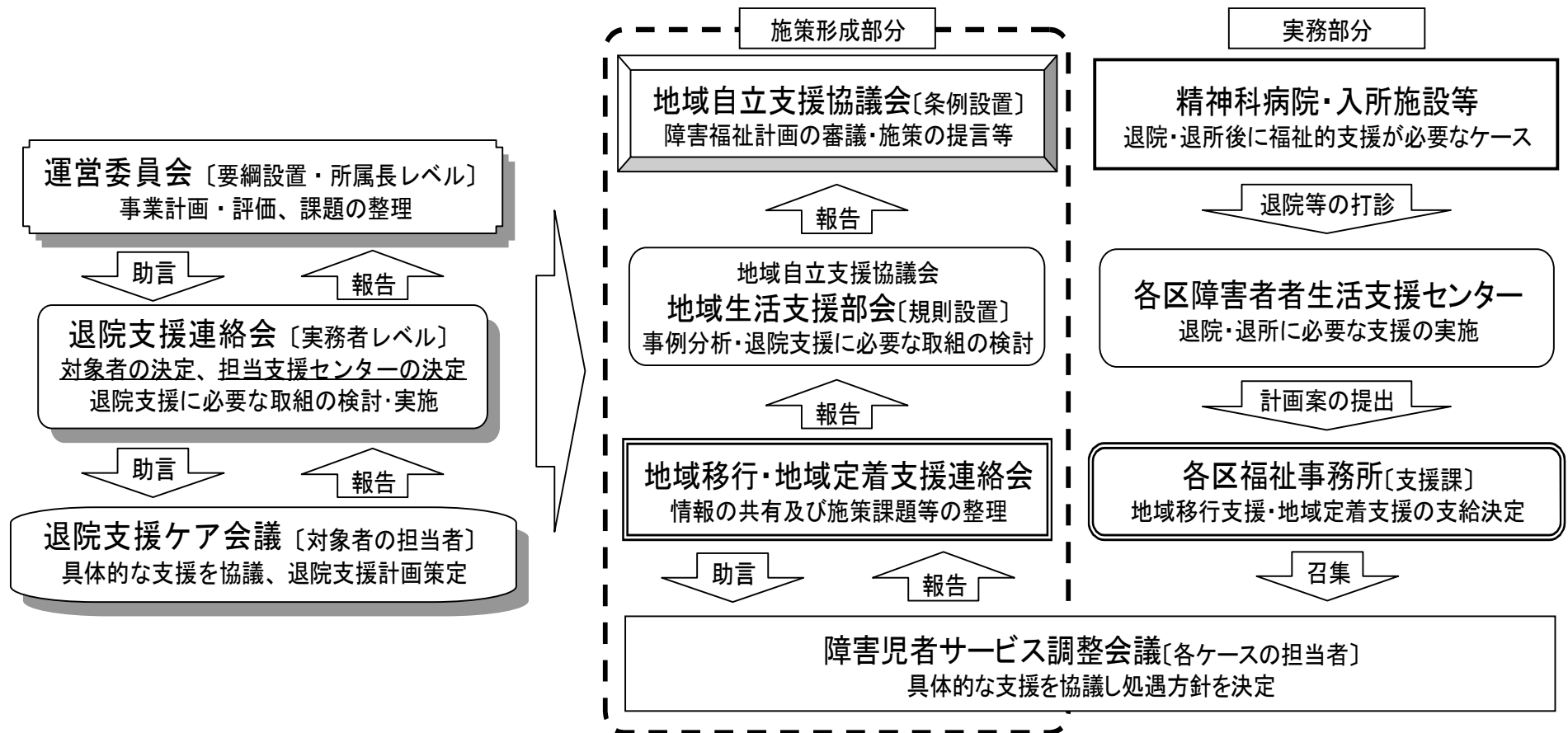
■ 内 容

- ・精神科病院に入院している患者の実態を把握し、事例の検討を行う。
- ・重点的に地域移行・地域定着支援を実施する対象者のリストアップを行うとともに、施策上の課題を整理し、地域生活支援部会に報告する。

■ スケジュール(予定)

- 第1回 8月2日(金) 15時～ 会場:保健所研修室A
- 第2回 10月4日(金) 15時～ 会場:障害者総合支援センター研修室
- 第3回 12月中旬
- 第4回 2月下旬

【体制イメージ図】



第1回地域移行・地域定着連絡会報告

■開催概要

日 時：平成25年8月2日（金） 15時～17時

会 場：さいたま市保健所 研修室

議 題：地域移行・地域定着支援連絡会について

さいたま市の現状について

今後の進め方について

■連絡会で出された意見

○病院より

- ・新しい制度の情報が入らなくなった
- ・地域移行支援事業をどのように進めていけばよいのか、情報が入ってこないためわからない
- ・計画相談の仕組みがわかりにくい
- ・対象者の条件について、医療では5年以上の入院者の支援に加算が付くため地域自立支援協議会が設定した対象者群が実態に即していない
- ・地域の支援者が関わる安心感、連携が必要だと思う
- ・チャレンジハウスのような体験の場があるとよい

○生活支援センターより

- ・地域移行支援事業は制約が多く、事業の利用をせず支援をしている
- ・地域定着支援事業は、24時間の体制確保の難しさがあり実施できていない

※事業を活用しているセンターもある

- ・計画相談の対応におわれている
- ・支援の方法や事務手続きなど区ごとの差をなくしていくことが必要

○共通

- ・同行支援などにおいて、ピアスタッフの役割が非常に大きい
- ・全市的な実態の把握と共有が必要
- ・チャレンジハウスやケアホームなどの社会資源が不足している

→さいたま市の現状を把握するために、入院患者の実態調査の実施を決定

今年度の地域移行・地域定着支援について

■さいたま市の現状

○6病院に入院患者の実態調査を依頼し、対象者をリストアップ

- ・広く対象者を把握するために、年齢及び入院期間の上限を設けず以下の条件に合致する対象者のリストアップを実施。(調査結果は別紙)

1. 入院期間が6か月以上の方
2. 帰住先がない、家族等の支援が困難な方
3. 複数の機関での支援体制の構築が必要と考えられる方

○調査結果から見えてきた課題

- ・対象者の選定方針に対する認識の相違
- ・社会資源の不足
- ・入院患者の高齢化
- ・家族に対する支援

■今後の進め方

○対象者の選定方針に対する共通認識を持つ

- ・地域自立支援協議会において議論された、重点的に地域移行支援を実施する対象者の選定方針について、地域生活支援部会及び地域移行・地域定着支援連絡会で再度確認を行う。

○必要とされる社会資源について検討を行う

- ・地域移行に向けた体験施設や、退院後の帰住先など、地域移行・地域定着支援を実施する上で不足している社会資源について、地域生活支援部会及び地域移行・地域定着支援連絡会において検討を行い、地域自立支援協議会に報告する。

【参考】

第5回地域自立支援協議会において審議された選定対象者の目安

- ①入院期間が3か月以上5年未満の方
- ②40歳以下の方
- ③退院にあたり家族のサポートが得られない、帰住地を新たに設定する必要がある方

2013年度地域移行支援 実態調査

★ICD-10による

	性別	年齢	主な家族	保険	居住区(援護地)	病名	今回の入院期間	総入院期間	退院に向けた課題
1	女	26	なし	生保	さいたま市	F20	3年6ヶ月	3年6ヶ月	協力できる知人あり。
2	男	33	母	生保	さいたま市大宮区	F2	1	8	家族が本人の病状悪化時を心配し、退院に消極的。
3	男	38	両親	国保	さいたま市緑区	F2	4	5	入院前にトラブルがあり、家族が退院に消極的。
4	男	39	兄	生保	さいたま市浦和区	F7	3	4	ご本人の退院意欲はややあるものの、イメージがつかないためか躊躇している。不安が強い。
5	女	39	父	重心	さいたま市西区	F2	7	7	帰住先がない。父が高齢のため協力は難しい
6	女	39	兄	生保	さいたま市見沼区	F2	8	8	兄が拒絶。本人の現実検討能力が乏しい。
7	男	42	妻	国保	さいたま市緑区	F2	1	4	妻が統合失調症で当院入院中。病状不安定。生保停止中。
8	女	43	両親	社保家	さいたま市緑区	F20	18	18	入院が長期となっており、自宅への外出を続けているが、父との関係悪く、外泊に至っていない。院内では作業療法等に参加するものの、様々な理由をつけて参加しなくなってしまい、長続きしない。
9	男	44	父・兄	生保	さいたま市中央区	F20	7	7	家族は退院には納得している。本人は不安があり、退院は消極的。
10	女	45	夫	国保	さいたま市緑区	F2	5	5	夫が統合失調症で当院入院中。病状不安定。生保停止中。
11	女	46	なし	生保	川口市	F7	5ヶ月	2	居住地の設定とご本人の生活環境を整える。
12	女	46	弟	国保	さいたま市見沼区	F3	6年9ヶ月	7年6ヶ月	院内では病状安定しているが、ADLの問題で受け皿がない。
13	男	47	母	国保	川口市	F2	1	8	退院先の確保とご本人の病状安定。
14	女	49	母	国保	さいたま市中央区	F2	1	3	母親高齢のため自立の訓練必要。現実検討能力なく、自立訓練への意欲がない。
15	男	52	父	国保	さいたま市北区	F20	5	5	父が年金生活で、他の家族がアパート契約の保証人となれない為、アパートが契約できない。また本人は保証会社を使うような低額のアパートでの生活は希望せず、結果としてアパートが契約できない。また内科的な検査数値の値が悪く、現時点での退院について本人は望んでいない為、退院調整が進まない。
16	女	52	保佐人	国保	宮代町	F2	6	6	本人が退院について消極的。新しい取り組みに対して拒否。
17	男	53	母	国保	さいたま市浦和区	F31	6ヶ月	6ヶ月	自宅への退院を目指しており、従来の住環境では自分のことを自分するのは難しいので環境調整。本人の意欲。
18	男	54	父、伯父	生保	さいたま市大宮区	F2	3	11	家族がかかわりを強く拒否。伯父は時々面会に来ている。
19	女	54	兄	社保家	さいたま市中央区	F2	8	9	退院に拒否的は家族がおり、協力が得られない。
20	女	54	両親、長女	国保	さいたま市見沼区	F2	9	10	本人と家族が退院に消極的。
21	女	55	両親	国保	さいたま市南区	F20	5	36	家族が退院に反対している。経済事情もある。
22	女	55	父	生保	さいたま市南区	F20	11	11	本人は退院希望をし始めている。
23	男	55	弟	国保	北本市	F2	2	2	家族が退院に対し消極的。
24	男	55	兄	社保家	さいたま市北区	F2	8	11	家族が消極的。本人の生活能力の向上が必要。
25	男	56	妹、他	生保	さいたま市緑区	F20	2	2	前回単身生活がうまくいかなかった際、家族に迷惑をかけたため。
26	女	57	妹	国保	さいたま市緑区	F20	35	35	本人の退院意欲がなく、家族も反対。
27	女	57	父、弟	生保	南房総福祉	F2	10	17	家族がかかわりを強く拒否。
28	女	57	父	国保	さいたま市大宮区	F2	3	3	病識なく、退院後治療中断することを家族が不安に思い退院に消極的。
29	女	59	なし	国保	さいたま市	F20	4年10ヶ月	27	以前退院の気持ちがあったが不安が強く退院まで結びつかなかった。
30	男	59	母	国保	川口市	F20	19	25	退院に対して不安がある。
31	女	60	成年後見人	国保	北本市	F20	21	21	本人の退院意欲がなく、家族も反対。
32	男	60	弟	退職(本)	さいたま市	F20	5ヶ月	3年3ヶ月	神川町に持家はあるが妄想あり居住不可。
33	女	61	姉	国保	戸田市	F20	9年4ヶ月	29	ご本人は退院の意志はあるがキーパーソンである姉が躊躇している。
34	女	62	父	国保	さいたま市南区	F20	14	14	入院が長期となっており、本人に退院の希望が少ない。ADLやコミュニケーションは良好。
35	男	63	なし	生保	さいたま市南区	F3	9ヶ月	5	居住地の設定とご本人の病状の安定、生活能力の獲得。支援体制を整える。
36	男	63	弟、妹	生保	さいたま市北区	F2	22	25	家族が協力的でない。本人も退院要望がない。
37	女	64	兄	国保	久喜市	F2	26	40	入院が長期がしているため家族が退院に拒否的。
38	男	66	なし	国保	さいたま市緑区	F20	9	48	金銭的な問題で施設探しが難航している。今後、家族を説得していく。
39	女	66	なし	生保	さいたま市南区	F20	35	35	長期入院になっており、本人自身が、退院に不安を抱いている。
40	男	66	姉	生保	さいたま市中央区	F2	33	33	本人が生活環境が変わることに強い不安あり。
41	女	66	姉	国保	さいたま市北区	F2	43	43	本人が退院に対して強い不安と拒否がある。
42	男	67	おじおば	国保	寄居町	F20	31	31	入院が長期となっており、本人に退院の希望がない。ADLやコミュニケーションは良好。
43	男	68	なし	生保	さいたま市南区	F05	5ヶ月	14	家族なし、本人退院意欲あり。
44	男	68	姉	生保	さいたま市南区	F20	32	32	本人の退院意欲がなく、家族も反対。
45	男	68	兄	生保	さいたま市北区	F2	25	25	陰性症状主体で、退院の意欲がない。
46	男	69	姉	高本	四街道市	F2	6	17	家族、本人が退院に消極的。
47	女	70	長男夫婦	国保	さいたま市	F20	1年7ヶ月	15	当院入院回数19回 家族、本人とも退院の意志なし。
48	女	70	兄	重心	さいたま市中央区	F2	21	35	妄想による他の患者とのトラブル。家族が退院に消極的。
49	男	70	妹	重心	さいたま市西区	F2	8ヶ月	50	生活環境の変化に弱く、他者と距離がとれずトラブルを起こす。
50	男	71	なし	後期高齢	さいたま市南区	F20	29	29	ご本人の退院意欲と退院先の設定。
51	男	72	弟	国保	八王子市	F2	38	50	家族が関わりを拒絶。住所は市外だが、本人は病院近くを希望。
52	男	72	弟	国保	墨田区	F2	7	7	家族が消極的。本人の不安あるが、理想も高い。
53	女	73	なし	後期高齢	さいたま市浦和区	F20	2	9	適した施設が見つからない。要検討。
54	女	75	長男夫婦	後期高齢	さいたま市緑区	F20	6	7	家族の協力が得られにくい。また退院に反対しており、遠方(神奈川)在住である為、施設探しに協力的でない。
55	男	77	元妻・息子	後期高齢	川口市	F0	4	9	ご家族関係の整理と退院先の検討。
56	女	77	妹	生保	さいたま市中央区	F2	3	26	家族が退院に対し消極的。
57	女	79	息子	生保	さいたま市南区	F20	34	34	協力家族がいない。本人の退院意欲もない。
平均		57.95	／歳				10.93	17.05	／年

★ICD-10より

F00 アルツハイマー病の認知症

F02 他に分類されるその他の疾患の認知症

F03 詳細不明の認知症

F05 せん妄、アルコールその他の精神作用物質によらないもの

F07 脳の疾患、損傷及び機能不全による人格及び行動の障害

F20 統合失調症

F31 双極性感情障害(躁うつ病)